



地域日本語支援ニュース こだま 第 265 号

2014.11.13



★—メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます—★

【地域日本語支援ニュース こだま】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

====目次=====

1■ともに生きる■

～留学生から支援する側に～交流の先にあるもの
手塚（黄）育紅（いくこう）

2■お知らせ■

進学進路ガイダンス情報
高校進学説明会情報 *更新情報はあります。

=====

1■ともに生きる■

～留学生から支援する側に～
交流の先にあるもの

手塚（黄） 育紅（いくこう）

手塚（黄）育紅さんは1988年に中国から留学生として来日され、現在は武蔵野大学で留学生支援にご尽力されています。経験者だからこそ知る温かい交流の持つ力、人と人をつなぐ意義について書いてくださいました。-----☆☆☆☆☆☆☆☆

◆恩師の誘いで◆

8年前、IT会社に勤めていた私は、大学の恩師からの一本の電話で、大学の国際交流課へ呼び戻され、そこから留学生の支援に携わり、自分自身の留学経験を生かせる仕事に就きました。

◆留学生時代に受けた恩恵◆

多くの日本語学校では、学校の先生が留学生の生活相談役、学習相談役を兼任しますが、大学ではそうはいきません。私が学んだ大学では当時日本語の先生による「留学生を孤独にさせない、よそ道に走らせてはならない」という提言をもとに日本人学生による「留学生応援団」が作られていました。留学生応援団になった日本人学生は日ごろ留学生と他愛のない会話をしたり、レポートの添削をしたり、一緒に遊びに出かけたりするくらいことしかしますが、異国へ一人で来た留学生にとって、これ以上ありがたい存在はありませんでした。私もその恩恵を受けた一人でした。

◆受け継いだ思い◆

恩師がこんなことも言いました。「いろんな国の友達を作りましょう。そうするとこの世界に戦争はおきません。」相手の国に自分の友人がいれば、その国と戦争をしたい人はいないという理念につながるものなのではないでしょうか。私自身もその信念によほど影響されたのか、仕事で大学へ再び戻った後、一番先に取り掛かったのは大学内の留学生と日本人学生との交流イベントの企画や地域住民と留学生との交流イベントでした。

◆優しくされれば 優しくなれる◆

学生のころ住んでいた武蔵野市には市民のボランティア団体が多く存在していました。今は「グローバル社会」と言われているように、当時は「国際化」が叫ばれた時代でした。留学生のための地域の住民による草の根の交流会がよく開かれていました。私も当時は先生や先輩に背中を押されていやいやイベントに参加していました。日本家庭料理、浴衣、着物の着付け、盆踊り、お茶会、新年会、お雛まつり等等、参加しているうちに、いつの間にか日本語が上達し、日本の文化、日本人を理解するようになり、たくさん学ばせてもらいました。学生時代に接したいろんな温かい支援、これらの経験がその後の私の人生において大きな意義があったことを後々知ることとなりました。

人の優しさに触れれば、人間は優しくなれる、そして人に対しても優しくなれます。それを体験を通して知っているから、いまだ少し強引でも私は周りの学生をいろんな場面、いろんな人と触れ合わせたい思いが強いのです。

日本政府は 2020 年までに留学生 30 万人受け入れ政策を打ち出しています。ここ 20 年間日本は官民が力を合わせて、受け入れる体制と人的支援が作り上げられています。この環境で育てられた留学生は帰国し、親日派になるのです。実際抗日意識が強い中国でも、元日本留学生たちが地道に中国版のツイッター「微博」を使って、本当の日本の姿を紹介しています。

◆日本からも外へ◆

一方で過去 20 年間、日本人学生は内向きとなりました。そして、やっとここ数年日本人学生の海外留学がまた少し増加する兆しが見え始めました。

私は最近日本人の海外留学業務も担当するようになりましたが、少しずつほんの少しずつではありますが、海外留学する日本人学生がまた少し増えているように思います。喜ばしいことです。彼らは帰国すると、必ずといっていいほど、誰もが目を輝かして、行って良かったと、いままで新聞ニュースの報道を信じた自分は本当に愚かだと言います。百聞は一見にしかず、互いに理解しあうためにも一方的ではなく、互いに往来することは大事だと思います。

◆ご縁、そして恩返し◆

ご縁に導かれて、留学生として来日し、ご縁あって日本に留まり、こうして留学生・留学業務に携わる仕事に就き、これほど幸せなことはありません。世界はやがて若い彼らのものになります。まだまだ模索中ですが、私は上の世代の方たちから受け継いだ信念を次世代の交流に少しでも役に立てられれば、いままで私を支えた方たちへの、そして社会への恩返しだと最近思うようになりました。

☆ 皆様からのご感想をお寄せください。☆
